



名寄市立大学の窓から

vol.72

知への誘い

「障害、障がい、障碍、どれが正しいの？」
——主体的に、かつ協同で学びを深めていく力を養う——

保健福祉学部 社会福祉学科 准教授 堀 智久



私は大学で、主に障害者福祉論の授業を担当しています。障害者福祉論の授業は一年生のときからありますが、その中で学生たちは、障害者福祉に関する法制度や障害者支援のあり方について学んでいきます。

制度改革推進会議でも議論されたことがあるほど有名なトピックです。

障害者福祉論の授業をしていると、学生からよく受ける質問があります。それは「シヨウガイ」の表記についてです。ちなみに「障害」「障がい」「障碍」とさまざま

まな表記が見られるがどれが正しいのかというものです。私はそういうとき、その質問をした学生に対していろいろと説明をしたくなるのですが、最近はそのような気持ちを抑えて「君はどう思うの?」「なぜそう思うの?」と逆に聞き返すようにしています。

実はこの「シヨウガイ」の表記は、内閣府(障がい者

私の授業で大事にしているのは、自分で調べ、吟味し、他人に伝えること、こうやってよければ「主体的に、かつ協同で学びを深めていく力」です。ですので「調べ」「考える」「意見を交わす」「協同で考えをまとめる」「プレゼンテーションをする」といった学習のプロセスを大切にしています。

「障がい」を使う理由
①「害」という字は「公害」・「害悪」などの否定的なイメージをともしなう。
②障害の社会モデルを理由にして「障害」「障碍」を使うのは、相手がその考え方を理解していることが前提である。

「障害」を使う理由
①「障がい」と「がい」だけが平仮名になるので日本語として不自然である。いかにも「配慮してあげています」という感じがする。
②表現をソフトにするだけでは本当の問題解決にはならない。
③障害を生み出しているのは障害者本人ではなく、社会の側である。障害の社会モデルの観点から障害を捉えるべきである。

「障碍」を使う理由
①「碍」という字は、電流を遮断する「碍子」などのように「妨げる」を意味する。障害の社会モデルの観点からこの字がふさわしい。

実は「シヨウガイ」の表記について「これを使うのが正しい」という正解があるわけではありません。しかし、自分はずいぶん「シヨウガイ」の表記を使うのか、その理由を相手にしっかりと伝えられることはとても大切なことです。また「シヨウガイ」の表記について理解を深めることは、障害者基本法をはじめとする法制度上の「障害者」の規定を注意深く読み解いていく姿勢にもつながっていきます。

大学図書館へようこそ!

何かと気忙しい年末ですが、大学でも卒論の提出や国家試験へのラストスパートと、4年生にとっては最もハードな時期となります。暖かく環境の整った図書館で、落ち着いてしっかり勉強してもらいたいと願っています。

【12月の開館について】

- ・日曜日と24日(月)は休館です。
- ・12月29日(土)から1月6日(日)まで休館です。
- ・12月28日(金)は午後5時で閉館です。



◆問い合わせ

名寄市立大学図書館 ☎01654⑧7671(直通)

大学図書館にはこんな本があります

～く「知」への誘い～からもう1歩～

障害(障碍・障がい)について考える本を紹介します。

『共生社会を切り開く』 佐藤久夫/著 有斐閣
→「障害の表記」の問題について解説が載っています。

『だれか、ふつうを教えてください!』 倉本智明/著 理論社
→世の中の「ふつう」や「常識」や「ルール」とは何か、障害当事者である著者が語っています。

『変わる福祉社会の論点』 増田幸弘ほか/著 信山社
→現代社会の今まさに話題になっているさまざまなトピックを取り上げ、問題点を整理しています。

『〈できること〉の見つけ方』 石田由香理・西村幹子/著 岩波書店
→全盲女子大生が切り開いた自らの可能性と、インクルーシブな社会を目指す思いが語られています。

